

80周年記念後のお田植まつり

悠紀斎田の80周年を記念したのが平成7年である。その後のお田植まつりとお田植おどりはどのように継承されたのだろうか。主だったものを拾ってみよう。

愛知万博への出演（平成17年5月28日）

平成17年に愛知万博が開催されているが、その時は六ッ美悠紀斎田にとって90周年記念にもあたる。それを記念し愛知万博委員会の招聘に応じ、「お田植おどり」を披露しステージで紹介している。6月5日には悠紀斎田90周年記念が開催されている。

愛知地球博まつりでの「お田植まつり」



愛知県民俗芸能大会（平成20年2月17日）

この年度に限ったことではないが、この頃になると例年のお田植まつりには、お田植まつり紹介記事が地元紙に掲載される。

早苗を植える菅の小笠の早乙女姿の写真または悠紀斎田と大嘗祭の解説記事であるが、その切っ掛けとなったのに第50回記念「愛知県民俗芸能大会」への出演がある。



早乙女姿で御田植唄に合わせて、早苗を植えてゆく保存会の会員ら
＝7日午後、愛知県岡崎市中島町の悠紀斎田場で（飯野幸雄撮影）



お田植まつり 95周年記念 (平成22年6月6日)

2010 (平成22) 年6月6日悠紀斎田95周年記念が開催されたが、岡崎市広報誌「おかざき」NO1144号は次のように紹介している。



当日の進行表	
13:30～	六ツ美北中吹奏楽部演奏
14:00～	1. お田植まつり式
	2. おわり
3	庄園の陣
4	お田植盆踊り
5	お田植
6	六ツ美悠紀斎田保存会
7	美地区絆会
8	美・学区女性部
9	美商工会女性部
10	美南部地区学生

式典は例年のように式次第に従って進められたが出演の団体が多く式を盛り上げるのに大いに与かった。列席の来賓も多く、綾川町長・県副知事・岡崎市長・県会議員・市議会議長らを数えていた。

街と村のたたずまいの変貌

消防団の統廃合と衣岡線の安全施設

消防詰所と六ツ美消防団第3部

平成22年1月、悠紀の里治安施設内に六ツ美消防団第3部の車庫・警備室が竣工し移転を完了した。

この経緯について述べてみたい。2001 (平成13) 年、市長は市議会に「消防団の定数と統廃合」の基本構想を送り審議を求めている。主旨は現下の社会情勢にてらし、地域消防団の団員選出と訓練への参加が困難であるという現実に立ち、常備消防の補強と消防力の強化を求めるところにある。

構想はやがて「消防団員の定数と消防団の統廃合」となって条例化するが、改正は各地域消防団員の定数削減と消防団の組織の統廃合を求めている。

当時、学区には古い経過をもって中島町上町に第3部、中村町西浦に第4部の消防詰所をもち任務を遂行していた。

現消防詰所



条例に準じ、南部の消防団でも定員数の削減と消防団の統廃合に取り組まなければならなかった。関係者による協議を経て、第3・第4部の統合を得て団員数も17～19年にかけて40名から24名に減員するという成案を得たが、問題は新しい詰所を何処に置くかという所在の問題である。

17年2月、学区総代会は消防部長と副部長の連署による「六ッ美消防団南部学区消防所の設置に関する要望書」を

岡崎市長に送り消防所設置の要望をしている。

- 学区の努力により団員削減に努めていること
- いままでの消防詰所は狭く、民家との隣接などの問題点があること
- 道路の狭小による消防ポンプ車の機動性を喪失していること
- 団員の車両駐車場の車庫設置の確保

と要望理由を挙げるが、第3部の消防詰所以外の適地を求めていることがわかる。

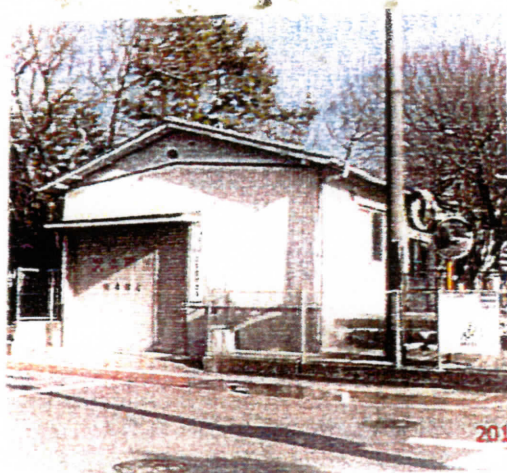
17年11月14日、学区総代会長は要望書をもって第3・4部の消防詰所を新しく造成の悠紀の里治安施設ゾーンにするように求めている。根拠は

- ① 子どもの遊園地に隣接していることの危険
- ② 神社境内の車庫警備室の狭小化
- ③ 神社神域の神秘性の喪失

である

こうした経過をたどり19年6月には基本計画とそれ以後の予定について消防本部と協議をし、8月には消防詰所取り壊し後の整備について消防本部・八幡社宮総代・実行委員会立会いのもとに現地協議に入ったのである。

結果、現地に地域交流センターの諸施設に先立ち第3部の消防詰所が建設された経緯をもつ。



旧第3部消防詰所

1958（昭和33）年、六ツ美村は町制を施行した。そして1962年には岡崎市と合併している。この時期、東海道新幹線が岡崎市域の六ツ美地区を貫通したのが1964（昭和39）年である。

この頃から人々の生活は変わり、「むら」のたたずまいも様変わりするようになった。当時、日本の産業構造の変化にともなう人口移動の現象に「過疎・過密」ということばが使われたがまさに人口の集中は街や「むら」の様相を変え、人々の生活様式や心の在り方をかえていった。例にすれば六ツ美地域においても人口の流入によって世帯・人口の社会増によって「むら」は市街地化していったといえよう。

明治から昭和にかけて愛唱された小学唱歌に「おぼろ月夜」があり、その一節に「——菜の花畑に入り陽薄れ 見渡す山の端かすみ深し——」というのがあるが、まさに牧歌的な田園風景は薄くなり、「明治は遠くなりけり」の感慨を抱かせるに至った。なにがそれをもたらしたのだろうか。

I. 市街地化の動きと区画整理

昭和31年7月の経済白書は、日本の政治・経済を総称して、「もはや戦後ではない」と表現した。

確かに戦後の混乱期を経て、日本の経済は朝鮮特需を経験し、復興から発展への道を進んでいた。昭和33年12月、時の内閣は国民所得倍增計画（高度経済成長）を発表し、政治から経済の季節への転換を図っている。

- 1964（昭和39）東海道新幹線開通

 - 東京オリンピック開催

- 1965（昭、40）名神高速道路全線開通

- 1968（昭、43）GNP（国民総生産）アメリカに次ぎ世界第2位

- 1968（昭、44）東名高速道路全線開通

- 1970（昭、45）日本万国博覧会（大阪）開催

- 1972（昭、47）「日本列島改造論」

昭和30年代から40年にかけて、いわゆる高度経済成長期といわれたこうした時代の趨勢は経済だけにとどまらず社会全般に変革をもたらしている。その一端をこの地方の農業にみてみよう。産業構造の中心である第1次産業の農業は、米の生産で既に「米価据置」から「生産調整」の時代に入っていた。それまでの農業構造改善事業や土地改良事業は稲作の省力化を招き、一家の中で複数の農業外就業者を出すとともに、農業兼業化の深化をもたらした。また野菜や花卉の園芸・畜産・果樹作などに一部大型経営が定着するようになったが、ひいてはそれが農業全般を換える結果となった。

耕地や農家の減少と農業従事者の高齢化、また農業機械——耕運機・トラクター等——の普及とオペレーターへの作業依託等の理由によって第1次産業は衰え、第2・3次産

業への転出と「勤め人」的な要素が目立つようになった。

構造変化は農業だけにとどまらない。商業部門にもみられる。それまで商業は中小企業の商店に支えられその商店は商品を販売し、売り上げによって生計を賄うのが常であったが、時世はそれを許さなかった。車社会の到来である。モーターレーゼーションは大規模な駐車場をもつ郊外型店舗を求めている。例えば岡崎市では昭和46年頃に始まるショッピングセンター「レオ」「セルビー」や名鉄「サンリバー」などそれであろう。大型店舗の進出はそれまでの小規模な小売り店舗を閉店させ、それらが街の景観を塗り替えたのである。

南部学区に学区の歴史と文化を紹介する小誌がある。それをみると「——昭和の初め頃、中島の商店街は県道沿いに135軒もの店があり、街はにぎやかで景気があった。店の種類が多く、駅の近くにタクシー屋や料理屋・旅館もあり、また1931年には中島新町に睦劇場があり芝居を上演した。(六ッ美南部の歴史・文化を紐解く)」という描写がある。まさに活況を呈していたことがわかる。

中島の街をよく知る人が閑散な店舗、店仕舞いの商店、あるいは転居後空地になった住居跡を形容して「ゴーストタウン」といったが、まさしくこのことばが当てはまる外観もあった。

街の姿をかえたのに農業・商業以外に工業もある。工業の発展は工場の進出となって、近隣ではソニー、豊田工機、日本電装、アイシンなど大企業の操業開始となって表れる。

日本電装が西尾市下羽角町住崎の地に操業を開始したのは1970（昭和45）年である。もともとトヨタ自動車の電装部門を担当していた電装はカーエアコン・ラジエーター・ディーゼル燃料噴射装置などの製造によって社業を伸ばし、この頃になると「日本電装からデンソー」へということばのようにグローバル企業に飛躍していた。大規模な工業生産には多量の労働力を必要とする。デンソーは多くの労働力を近隣や遠隔の地から求めたが、雇用された労働者の内一部は永住の地を近辺に求めた。宅地の確保から住居の建築という願いはやがて、周辺を市街地化する将来を暗示していた。それが市街地形成の引き金となった。

もともと中島地区を含めて学区は水田・畑・宅地が混在しており、放置すれば無秩序な市街化が予想された。それは地名からすれば上側・上側新町・中島八幡・中島新町・中島本町・中島境町・後屋敷・小園・高畑等といった「むら」で顕著であった。

土地区画整理事業の目指すところは——錯綜した土地区を整理して道路・上下水道・公園等の設置を行って、土地利用が無秩序に進行することを未然に防ぐとともに将来の市街地化に備えて都市基盤を整備し住みよい都市を実現することにある——である。

こうした事情を背景に区画整理事業が始まった。区画整理は昭和45年9月の岡崎中島土地区画整理組合の設立により実施された。

同 一 員 役



事業の沿革

当地域は、先人の努力により、矢作川流域沖積層の豊饒な土地を開拓した地であり明治三十七年、全国に率先して耕地整理事業の完成をみた。

大正三年、宮中神威において益田点定の御儀があり、中興の田如、總経各田に点定されるなど誇り高い田園地帯として栄え、戦中戦後を通じて食糧増産に貢献した。工

農家が追いつれて、農地の宅地転用、農家用水の汚染等地域のスアロール化が急速に進み、環境が圧迫されるに至った。

か、右各態を要慮した区域の土地所有者の利益を保護の目的から、區画整理組合が高まり、昭和四十五年十一月、市街化区域に決定、昭和四十九年五月、區画整理組合設立準備委員会を發足させ、「健全な町づくり」の基本計画を策定し、権利者の総

を待て、昭和五十一年五月、岡崎中井土地区画整理組合を設立、事業に着手し、
農地、仮換地の指定、家賃等の補償、宅地造成、道路の新設及び排水水路の整備、
上水道の布設、公園緑地の建設、保育園用地の確保等、新市街地としての面的整備を

多岐に亘り巨細整理事業の推進に尽力いたした関係者各位に、深甚なる謝意を表すと共に、この事業を後世に永く伝えらるるため、ここに、完成記念碑を建立す。

昭和五十七年三月吉日
岡崎中島土地画整理組合

中島町字湖生池
 宇上ノ木 字カラ

ムン 宇堀口 宇字五、宇在長池 宇下牧池 宇
下井ノ上 宇渡島ハル字井ノ上の本部
正名町宇南イユ 宇北イユ 宇枝森 宇戸原及ハ宇式村

給面積 浦の冬一郎 三四五ヘクタール 事業認可 昭和五十五年五月
給面積 浦の冬一郎 三四五ヘクタール 事業認可 昭和五十五年五月

新事の完成を記念して、中央、西の三記念館を建設

理事 長 野口 榮 同	副理事 長 川 瀧 義 同	理事 長 早川 利 雄	副理事 長 早川 精 治
-------------	---------------	-------------	--------------

市川右太衛門
牧与三郎監事早川良一故高岩瀬勝太郎
杉田文雄同演場坂術故高村山菊太郎



岡崎中島土地區画整理組合

昭和五十七年三月吉日

事業概要

施行区域、中島町字加の全部、中島町字明生池、宇上ノ木、字カラ

下井ノ上 字藤島及び字井ノ上の各一部

正名町字南イ上 字北イ上 字枝森 字戸原及び字式部等

三、四、五、へクトール 事業認可 昭和五十五年五月

老拾四億貳千叁百萬余円 当初組合員數 三四五人

役員

谷森雄理事
早川正平
早川富雄
早川正平

義同
安同
早川
新五郎
故理事長早川精治

岩瀬勝太郎

田文雄同 演馬坂衛 故司 村山菊太郎

工事の着手は昭和51年11月であり工事完了は57年3月となっている。施行面積は343,274.96㎡ 施行区域は中島町のほぼ全域にわたった。

施行地区の地域

岡崎市中島町字草加の全部。

岡崎市中島町字明生池、字上ノ木、字堀口、字道海、字寺後、字カラムシ、字下長池、字上長池、字下井ノ上、字井ノ上及び字藤島の各一部。

岡崎市正名町字南イユ、字枝森、字北イユ、字芦原及び字式軒屋浦の各一部。

総事業費は1,423,000千円に及び関係者は認可申請時の土地所有者316名、換地処分時の土地所有者は414名にもなった。多くの人々の理解と協力のもとに土地区画整理事業が行われ、やがて公園4ヶ所、地区住民のコミュニティ活動の記念館3館、宅地造成、道路の新設と用排水路等の事業が完成した。



施工前

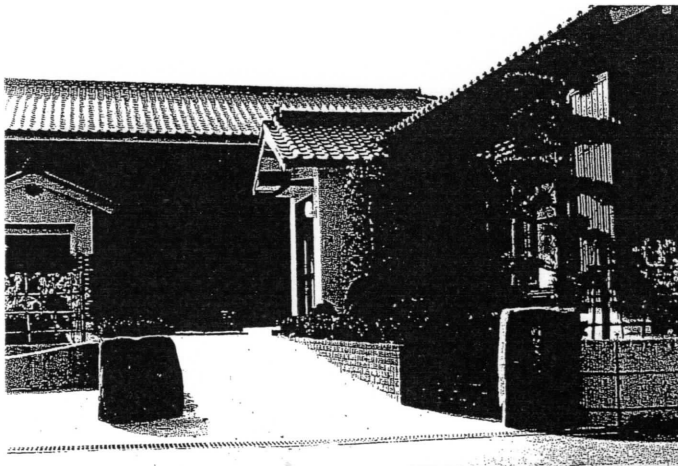


施工後

完成した公共施設



中央記念館



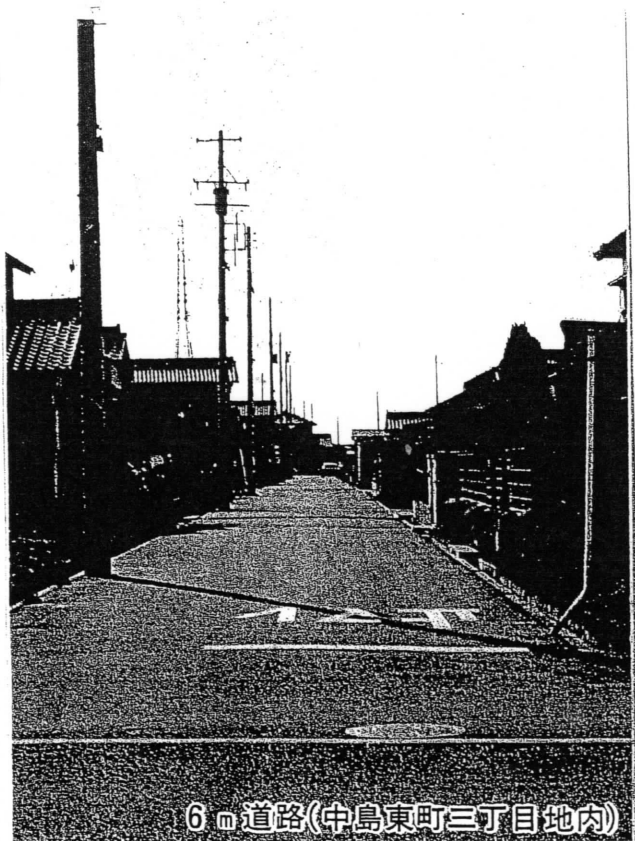
西記念館



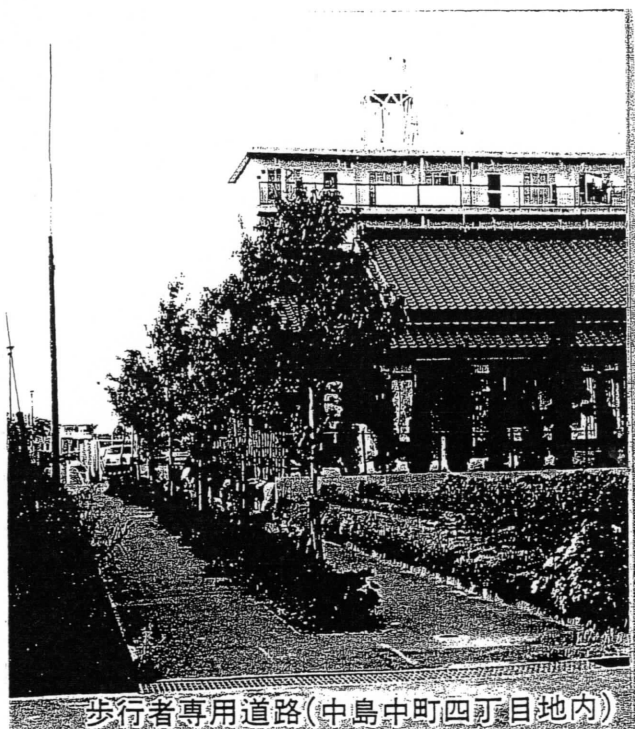
東記念館



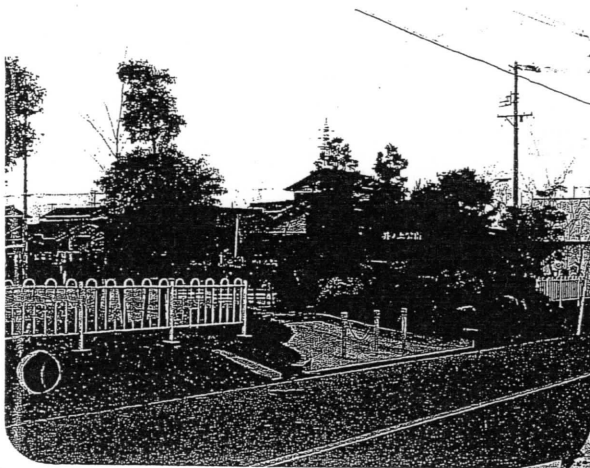
10m 道路(中島中町三丁目附近)



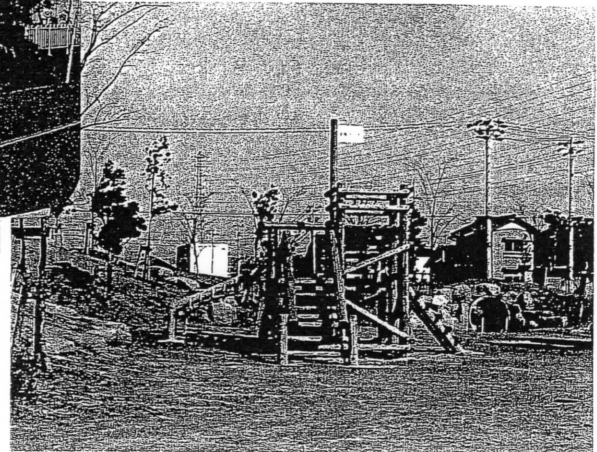
6m 道路(中島東町三丁目地内)



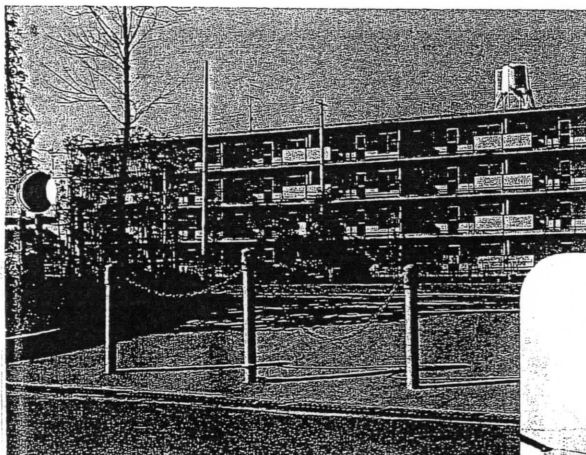
歩行者専用道路(中島中町四丁目地内)



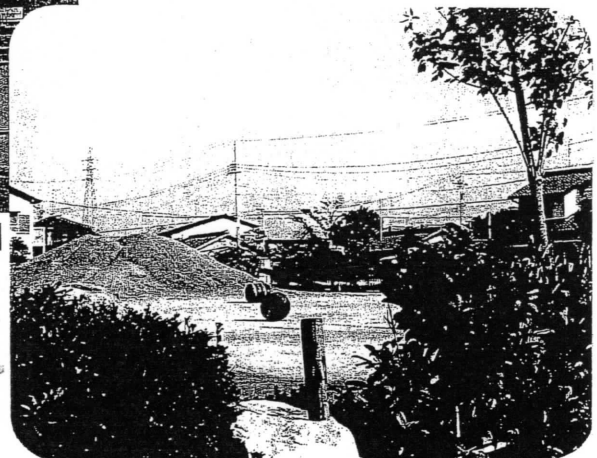
井ノ上公園



齊田公園



長池公園



二軒屋公園

当時、市の行政当局は「明日の都市を創造するまちづくり」を謳い、文化・教育・福祉・体育の向上などの行政に取り組んでいたが、中島地区の区画整理事業などもささやかに貢献したともいえるし、またそれ自体が街を換える要因になった。

衣岡線とコミュニティ広場構想

衣岡線の事業計画

平成6年頃、悠紀斎田に新しい問題が起ってきた。斎田の圃場移転である。

衣岡線というのは碧南市港本町と岡崎市大平町を結んで総延長25.720km、最大幅員を30mとする大型都市計画道路である。

国道1号・23号・248号線の南北幹線道路をネットし、西三河の都市である碧南市・西尾市・岡崎市を結んで都市相互間の交流と交通渋滞の解消、物流の促進を図るものと期待されたが、問題はその路線が斎田の圃場の真上を通るという実施計画である。

———ほおっておけば、斎田は消える———そんな杞憂と不安が、存続の運動へと斎田関係者を駆り立てた。

平成11年度の学区総代会と悠紀斎田保存会は岡崎市長に「六ッ美悠紀斎田の保存に関する要望書」を提出した。

斎田の圃場移転問題とは別に、このころ悠紀の里コミュニティ広場構想も浮上してきた(平成11年12月ごろ)

悠紀の里コミュニティ広場構想

(1) 悠紀斎田ゾーン (4,000㎡)

- ・悠紀斎田(圃場) ・記念碑及び顕彰碑 ・竹矢来・鳥居
- ・催事場(お田植神事・お田植おどり) ・駐車場

(2) 地域交流センター (7,000㎡)

① 地域交流センター (1,500㎡)

- ・生涯学習室 ・老人憩の家 ・会議室 研修室 ・駐車場

② 多目的広場 (5,500㎡)

- ・イベント広場 ・緊急避難場所 ・子供広場 ・道の駅
- ・駐車場

(3) 治安施設ゾーン (1,000㎡)

- ・消防詰所と関連施設 ・駐車場

その構想というのは斎田の圃場移転を機に、斎田周辺の用地を取得し、そこへ斎田の圃場や地域交流センター(生涯学習室・老人憩の家・会議室など)の施設・設備、及び多目的広場や治安施設(消防詰所)と駐車場等を集中しようというのである。

この機会をとらえ、悠紀斎田の確保と地域交流、安全・安心の充実を図ろうというものである。

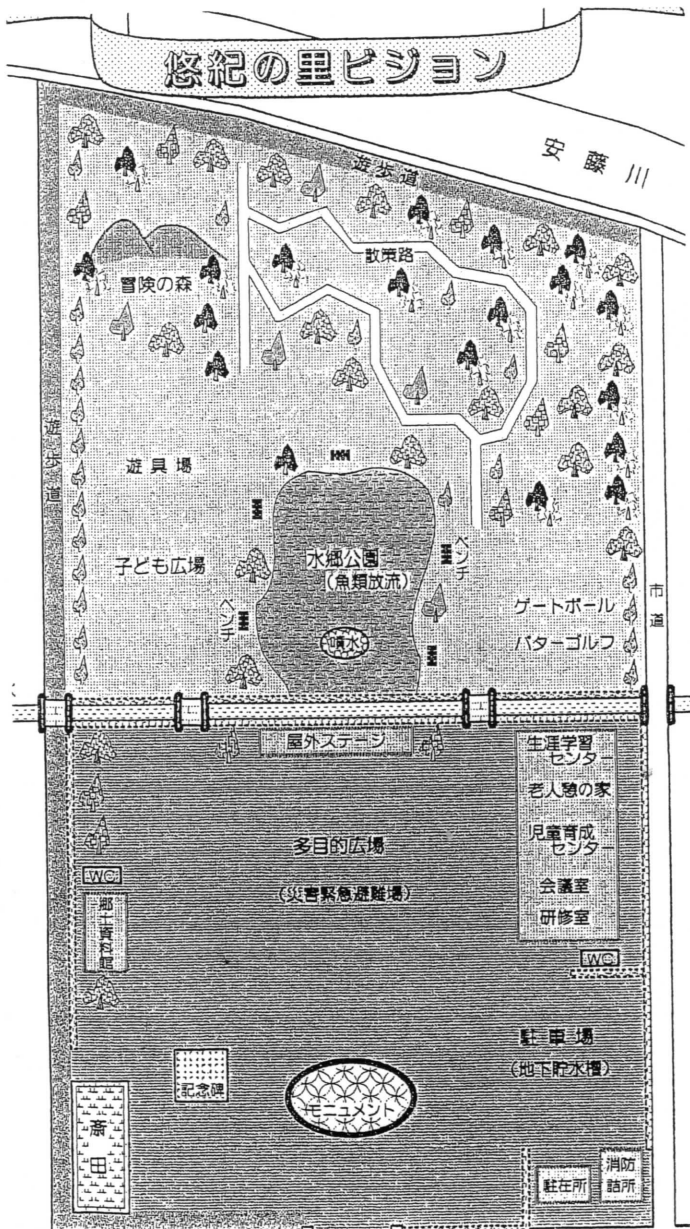
杉浦正健衆議院議員、青山秋男県会議員、山本雅宏市会議員、それに柴田紘一岡崎市長各後援会長が相談役・参与に就任して悠紀斎田特別委員会が発足した(平成13年6月)。

特別委員会にとって、処理すべき課題は山積したが

- ① 要望書の提出 ② 悠紀の里ビジョンの作成 ③ 外部への働きかけ等である。

悠紀斎田特別委員会——平成13年6月——

顧問	山本 雅宏
総代会長	谷川 巖
社教委員長	高橋 磐雄
地権者	
保存会	早川 滝義
後援会	柵木 猛、小島 寛、山本 定一、杉浦 勝英
社教委員会	八木 和雄
総代会三役	浅井恒信、渡辺孝太郎、鶴田 忠男



悠紀斎田の保存と悠紀の里コミュニティに関する

要望書

貴台におかれましては、平素、市政にご尽瘁を賜るとともに、本学区の自治に格別のご高配を賜っていますことを厚く御礼申し上げます。

さて、既にご存知と存じますが、岡崎市中島西町地内に位置する岡崎市無形民俗文化財に係る悠紀斎田は、近い将来に開通が予定されます産業道路 岡崎-衣浦線によって圃場、記念碑等が損なわれる恐れがあります。

大正4年の大嘗祭に発祥をもち80有余年の伝統と由緒あるお田植まつりを滅失するのは忍び難く、ここに用地の移転、確保について格別のご高配を懇願します。

さらに加えて、近時斎田用地の問題とともに学区民の中で要望されているのに地域コミュニティづくりの構想があります。それは悠紀斎田の移転の機会をとらえ、付近一帯の圃場を確保し、多目的広場として、広く住民に開放したらという発想からきています。

行財政の需要が多く、財政事情が厳しいという事情を側聞するにつけ、無理な願いとは存じますが是非聞き届けいただきますようお願いいたします。

いまさらふれるまでもありませんが、過度の物質的な豊かさは、反面で人々の心の貧困をもたらしています。かかる時代、多目的、多機能を備えた広場を構築し、人々に「うるおい」と「やすらぎ」「ゆとり」等を与えるのも価値あるものと存じます。ご賢察のうえよろしくご高配を賜りますようお願い申し上げます。

平成13年 月 日

ビジョン作成には総代・社教委員・地権者代表・保存会代表それに南部小学校（４・６年５９名）が関わっている。

（平成１３年９月７日）

基本的な方針のもとに具体的な運動を展開する。

- 「明日の岡崎を話し合う会」でコミュニティ構想を説明（１４年１０月１１日）
- 学区総代会による「悠紀斎田の保存とコミュニティ広場に関する要望書」を岡崎市長に提出（１４・１２・２４）
- 悠紀の里コミュニティ開設準備会を開催（１５・８・１１）
- 「明日の岡崎を話し合う会」で悠紀の里コミュニティ広場の構想を発表（１５・１０・１０）
- 地権者説明会（１５・１２・２３）
- 六南地域活性化ビジョンを作成（１５・１２・）
- 六南地域活性化について岡崎市長と話し合う（１６・１・７）
- 「悠紀斎田の移転・保存に関する要望書」を岡崎市長と教育長に提出（１６・１・２８）

地権者への対応

悠紀の里ビジョンにも画かれた取得の希望用地は斎田東側の高橋用水から北方の安藤川に向けて中島町字丸の内地区１２，２１１㎡（１町２反）中島町字上野地区１１，５４２㎡（１町１反）となっている。非常に広い面積である。後に岡崎市行政の公園緑地課や教育委員会の指導・助言もあったが、それによると該当地の多くは市の施設計画と法規制による枠があり「市街化調整区域」や「農業振興地域」にも指定されていることである。

用地の指定基準あるいは費用と経費・維持管理等の理由や特別委員会での議論の結果、用地は丸の内地区（地権者９名）と決定される。

問題は地権者への対応である。地権者への交渉は第１回悠紀斎田地権者説明会（平成１５年１２月２３日）として始まった。

以後２１年５月の第７回に及ぶが、質疑は

- 用地購入の流れ
- 用地購入の手続き
- 公拡法（[公用地の拡大に関する法律]昭和４７年）
- 用地測量
- 土地価格とその決定の仕組み
- 寄付採納地の扱い
- 土地収用の手続きとスケジュール

など、専門的に長期間にわたった。

無理からぬものであった。地権者からすれば、父祖伝来の土地を手離すだけに慎重にならざるを得なかった。

初期の説明会には悠紀の里コミュニティ広場開設委員会があたったが、後には教育委員会等市側の行政当局者も加わっている。

圃場の一部の寄附採納

用地の取得とは別に平成18年7月の「農道拡幅のため圃場の一部を寄附採納する件」の問題がある。

「中島上町」及び「中島丸の内」地内には以前から農道があった。40年代になりその農道拡幅のため一部を寄付採納し工事の末に約4mの道路が確保されたが、当時の会議録や工事日程・寄附採納の証拠などが残されていなかった。将来の道路・側溝整備・相続時に問題が生じるとの市の指摘から「寄付同意書」の作成・署名・捺印に踏み切ったのである。

地権者と所有面積

(中島町字丸の内)

地 権 者	地 番	面 積 (㎡)
体 育 課	1 1	9 9 1 . 0
	1 0 - 1	9 9 1 . 0
早 川 久 子	7 - 2	1 3 1 0 . 0
早 川 宗 男	2 2	9 9 1 . 0
	2 7	9 9 1 . 0
鋤 柄 實	2 3	9 9 1 . 0
	2 6	9 9 1 . 0
牧 良 一	2 4	9 9 1 . 0
小 林 秀 次	2 5	9 9 1 . 0
牧 野 勝 利	3 8	9 9 1 . 0
杉 田 み つ 江	3 9	9 9 1 . 0
鈴 木 明	4 0	9 9 1 . 0
地 検 者		面 積
9 名		1 2 , 2 1 1 ㎡ (1 町 2 反)



寄付採納地 (幅 1m)

安 藤 川	
中島字中上野	中島字上野
18-1,9 杉田三郎	8 杉浦恒夫
8 村山恒雄	9 杉田収彦
1 赤松 朝	10 牧野寅雄
荒 子	悪 水
中島字上丸の内	中島字上野
40 鈴木 明	11 牧野勝利
25 小林秀次	18 早川利雄
24 牧 良一	19 太田栄吉
7-2 早川哲夫	26 早川勝英

都市計画道路衣岡線

当該地は斎田側からすれば消防自動車や利用者のコミュニティ広場への出入りの通路でもあり、拡幅と舗装は望むところであった。経過をたどり平成18年12月には岡崎市土木用地課より総代宛に寄附採納と現地測量の回答が寄せられた。

竣工の悠紀斎田ゾーン

バブル経済も崩壊し危機を脱しかけた頃、悠紀斎田の圃場と施設の建設も落ち着きを見せた。18年3月29日には施設・設備の竣工検査が行われる。前後して平成17年度の学区総代会から「クロガネモチ」、市教育委員会から「サルスベリ」(5月15日)、コミュニティ広場開設実行委員会からは「ラデンマキ」が寄贈され、斎田ゾーン一隅で記念植樹が行われる。



立派に整備された悠紀斎田ゾーン



記念樹

ご来駕を要請する宮内庁訪問

平成17年に90周年、そして22年には95周年とお田植まつりに関する記念式典が続く。その都度100周年記念とそこに招聘する来駕のことが意識された。何方が良いのか、誰が相応しいのかという人選である。

平成10年、地区で国会議員杉浦正健氏の国政報告会が開催されたことがある。席上、杉浦氏の後援会長が記念式典への皇室関係者のご臨席の是非を質すが、議員の「賛成」の意向を受けて宮内庁への要請の訪問が決まった。

岡崎市の承諾を経て皇室関係者のご来駕要請が実施されることとなった。

第1回 宮内庁訪問 (平成18年9月15日)

皇室関係者のご来駕を要請する宮内庁訪問は、霞ヶ関の外務大臣杉浦正健氏への訪問から始まる陳情は杉浦氏の宮内庁への仲介から成立したが、陳情団は青山県議、山本市議、後援会役員、保存会役員などから構成されていた。



陳情は携行の資料「悠紀斎田とお田植まつり」「皇室との係わり」「100周年記念式典の主旨と意義」に基づいて宮内庁関係者になされている。

同席された宮内庁宮務調整官は、その際総務課・宮務課の同意の必要を説き、諾否を約束するものではなかった。

第2回 宮内庁訪問 (平成22年3月15日)

今回も前回に準じたが、陳情者の顔触れも広く学区だけにとどまらず、中部学区・北部学区・西部学区の要職者にも拡がっている。

宮内庁訪問＜六ヶ美悠紀斎田保存会役員＞参加者

訪問日 平成22年3月15日

氏名	生年月日	住 所	電話番号	公職等
スキフカグサヒデ 杉浦昌英	昭和18年8月17日	岡崎市安藤町字川田36-2	0564-43-2538	六ヶ美悠紀斎田保存会 会長 岡崎市地代連絡協議会 監事 六ヶ美地区地代連絡協議会 会長 六ヶ美南部学区地代会 会長 安藤町 地代
マキノイサオ 牧野伊佐夫	昭和13年5月4日	岡崎市井内町字久世76-2	0564-52-8996	六ヶ美悠紀斎田保存会 副会長 六ヶ美地区地代連絡協議会 副会長 六ヶ美北部学区地代会 会長 井内町2区 地代
ナカハラヒデオ 長原秀夫	昭和21年1月11日	岡崎市法住寺町字瀬之内34-8	0564-53-1838	六ヶ美悠紀斎田保存会 書記 六ヶ美地区地代連絡協議会 書記 六ヶ美西部学区地代会 会長 法住寺町2区 地代
カワハラハルヨシ 河原治英	昭和15年1月12日	岡崎市合飲木町字上瀬岡231-2	0564-43-3048	六ヶ美悠紀斎田保存会 会計 六ヶ美地区地代連絡協議会 会計 六ヶ美中部学区地代会 会長 上合飲木町 地代
イトカワフミオ 市川文男	昭和28年9月5日	岡崎市巾島西町2-2-1	0564-43-2543	六ヶ美悠紀斎田保存会 理事 愛知県食品衛生協会岡崎支部 支部長 岡崎市食品衛生協会 会長 六ヶ美商工会 会長
タカハシキョウコ 高橋愛子	昭和21年10月11日	岡崎市巾島町字中道43-1	0564-43-2101	六ヶ美悠紀斎田保存会 理事 六ヶ美悠紀斎田保存会 おどり部会副会長
ヨネズヨウコ 米津洋子	昭和28年7月14日	岡崎市国正町竹ノ下7	0564-43-2218	六ヶ美悠紀斎田保存会 おどり部会指導委員
マセキタケン 藤本 健	大正8年9月3日	岡崎市巾島町字高畑196	0564-43-2489	六ヶ美悠紀斎田保存会 相談役
アヤマアキオ 青山秋男	昭和21年11月2日	岡崎市福岡町下西野71	0564-51-8687	愛知県議会議員



席上、宮内庁は「今後の運動の継続には行政関係関与が必要である」という示唆を与えているが、運動の発展にはけだし当然であろう。この席で悠紀斎田保存会長から宮内庁長官へ親書が手渡されている。

六ヶ美悠紀斎田遷定二〇周年記念式典について
六ヶ美悠紀斎田 田植まつり
(岡崎市世帯町民文化財指定)

私共は六ヶ美悠紀斎田保存会と申します。
第百二十三代大正天皇(ご即位の大嘗祭に献
上米の地として当時の祭事も後世に伝承するこ
とも目的として地域で、これを守り続けてお
ります。

見出しの件につきまして、来る平成二十七年六
月にこの祭事「悠紀斎田田植まつり」が一〇〇
周年の節目の年となります。

現在保存会では、この一〇〇周年記念事業
の準備に着手致したところであります。

地元住民並びに保存会では「一〇〇年の夢とし
て是非皇族をお招きし、この祭典を厳
粛に執り行いたい」と願っているところでございます。

六ヶ美悠紀斎田田植まつりの経緯につきましては
別添の冊子をご高覧いただきたく存
じます。

特筆すべきことは、大正四年の大嘗祭の時
使われました稲穂が九十二年ぶり地元の旧家
で発見され、この初を播種したところ見事発
芽に成功し、以来現在はこの時の「萬歳」と
いう品種でお田植之祭りを続けております。
六ッ美悠紀斎田保存会の地域住民三千八十人
の夢である「皇族をお招きして一日周年を」
が何卒実現できます様格段のご配慮をお
願い申し上げます。

平成二十二年三月十五日

六ッ美悠紀斎田保存会

会長 杉浦勝英

事務局 岡崎市中青島町天神六ッ番地

岡崎市役所六ッ美支所 電話 番号
五五四三三三〇

宮内庁長官

羽毛田信吾殿

第3回 宮内庁訪問 (平成22年12月6日)

今回の訪問には、県教育委員会生涯学習課文化財保護室主任主査と岡崎市教育委員会社会教育課課長・文化財保護整備活用班長が加わっている。それに悠紀斎田保存会の相談役・会長・副会長・書記・会計に加えさらに青山県会議員も名を連ねている。

その際、平成22年3月の岡崎市「悠紀の里整備基本構想」が小山宮務課長らに伝えられた。

○大嘗祭悠紀斎田100周年事業の概要

○皇族のご来駕要請

○事業体制とスケジュール

○岡崎市の基本構想

この概要に加え ① 稲作農業の収穫儀礼である大嘗祭は皇位継承の祀りとされ「古事記」や「日本書紀」にも記述されている。② 明治天皇のご崩御にともなう大正天皇の即位にあたっては、六ッ美悠紀斎田は献穀・供納の大任を無事に果している。③ 以後6月の第1日曜を「お田植まつり」の日として定め、伝統行事を偲んでいる。④ 昭和41年には悠紀斎田の「田植歌・踊り・用具・装束一式」は岡崎市の無形民俗文化財に指定されている。⑤ お田植まつりの当日には地元小学校の少女や保存会の女性部員も菅笠を冠り田植唄を高唱しながら圃場に入る。風にそよぐ早乙女姿は、大嘗祭悠紀斎田の祭事を彷彿させる初夏の風物詩である等が補足された。

100周年記念お田植まつりの概要

- | | |
|-----|---------------------------|
| ○名称 | 大嘗祭悠紀斎田100周年記念事業（仮称） |
| ○主催 | 大嘗祭悠紀斎田100周年記念事業実行委員会（仮称） |
| ○後援 | 県内市町村、教育委員会、各新聞社（未定） |
| ○日時 | 平成27年6月7日（日） |
| ○場所 | 岡崎市中島町字上丸の内地内 悠紀斎田広場 |
| ○参加 | 約1000人 |

第3回宮内庁訪問者

悠紀斎田保存会相談役 杉浦 勝英

会 長 牧野伊佐夫

副会長 兵頭 紀之

書 記 川澄 幸治

会 計 近藤 武美

愛知県会議員 青山 秋男

県教委生涯学習課文化財保護室

主任主査 小川 芳範

岡崎市教委社会教育課

課 長 齋藤 勝英

文化財保護整備活用班長

杉山 明美



ご臨席を要望する皇室関係者

憲仁親王妃久子殿下（高円宮）

要望理由

○高松宮殿下が愛知県の農村事業を視察された際、お田植まつりの跡地とお田植おどりを八幡社でご高覧されている。（昭和4年11月25日）

○ 憲仁親王妃久子殿下は文化・スポーツ・芸術・歴史を初めとする文化全般にわたるご造詣が深いと承っている。ことに近時では地域伝統芸能文化センターの名誉総裁として伝統芸能や伝統行事に厚意を払われていると側聞している。

皇室関係者への派遣要請は高松宮妃殿下にとどまった。

後に宮内庁より悠紀斎田への派遣は ○皇室関係者の適否 ○日程と公務 ○派遣と受け入れの体制などの理由から後日に検討するとの意向が伝えられた。

岡崎市の財政事情

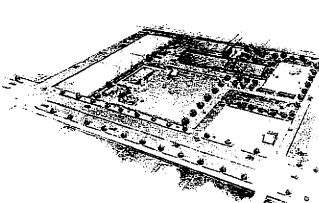
21年度予算と悠紀斎田

2008（平成20）年9月28日、アメリカのリーマン・ブラザーズの経営破綻にはじまる世界の経済同時不況は国内にも影響をもたらし各自治体の財政事情を苦しくさせた。

厳しい中で、岡崎市は20年度末に至り新年度の当初予算を組まざるを得なかった。予算の編成にあたり「投資的経費」や「経常的経費」の削減「事業の先送り」を求めたが、窮迫に変わりはない。

この背景にもかかわらず市は21年2月、2,233億9,549万円を発表し斎田関係としては「斎田保存基本構想策定費用」300万円と「土地開発公社予算」2億3,300万円を計上している（平成21年2月19日）。この予算措置とともに悠紀の里を「地域資源を活かした地域活動の拠点」と定め、「歴史的・文化的資源の保存・継承と活力とふれ合いの場」の創出を求めた悠紀の里基本構想を発表している。

斎田を核に広場整備
岡崎教委「悠紀の里」基本構想



「悠紀の里」のイメージ図
(岡崎市教育委員会提供)

岡崎市教育委員会は二十日、同市六ツ美地区の文化、ふれあいの拠点となる「悠紀の里」の基本構想を発表した。大正天皇即位時の大嘗祭に新米を献上した。悠紀斎田は全体の二分の一にあたる約二百平方メートルが保存され、市教委は、総事業費を八億五千万円と試算していた。（中野祐紀）

毎年六月上旬に地元保存会が市無形民俗文化財「お田植えまつり」で当時の様子を再現。隣接して約四千平方メートルの斎田広場があり、周囲は水田と住宅地などに囲まれている。

構想では、斎田と広場を含む約一万一千平方メートルに、地域や斎田の歴史を伝える展示スペースやホールを備えた施設、約六十五台分の駐車場、消防団の器具庫、多目的広場を整備する。

基本構想は市の二〇〇九年度当初予算に策定費用三百万円が盛り込まれ、市教委が検討中。

具体的には

・用地の面積	1万1000㎡
・施設	・施設や斎田の歴史を伝える 展示スペース・ホール
	・駐車場（約65台分）
	・消防団器具庫
	・多目的広場
・総事業費	8億5000万円 (内用地買収費2億2600万円)

行政への対応

市の行政姿勢に対応するには、斎田側の構えも必要である。従来、斎田や地域コミュニティ構想については南部学区に偏るきらいであったが、以後六ツ美4学区の協力を求めることとなった。

六ツ美地区全域を対象に

- ① 六ツ美地区全体を対象とする歴史と文化の伝承
- ② 六ツ美4学区総代会を基盤に4学区が共有する地域全体の取り組みとし、社

教委員会の全面的な支援を求める

③ 歴史と文化を伝承する基盤を悠紀斎田とする

④ 接渉・連絡・調整の窓口を教育委員会とする

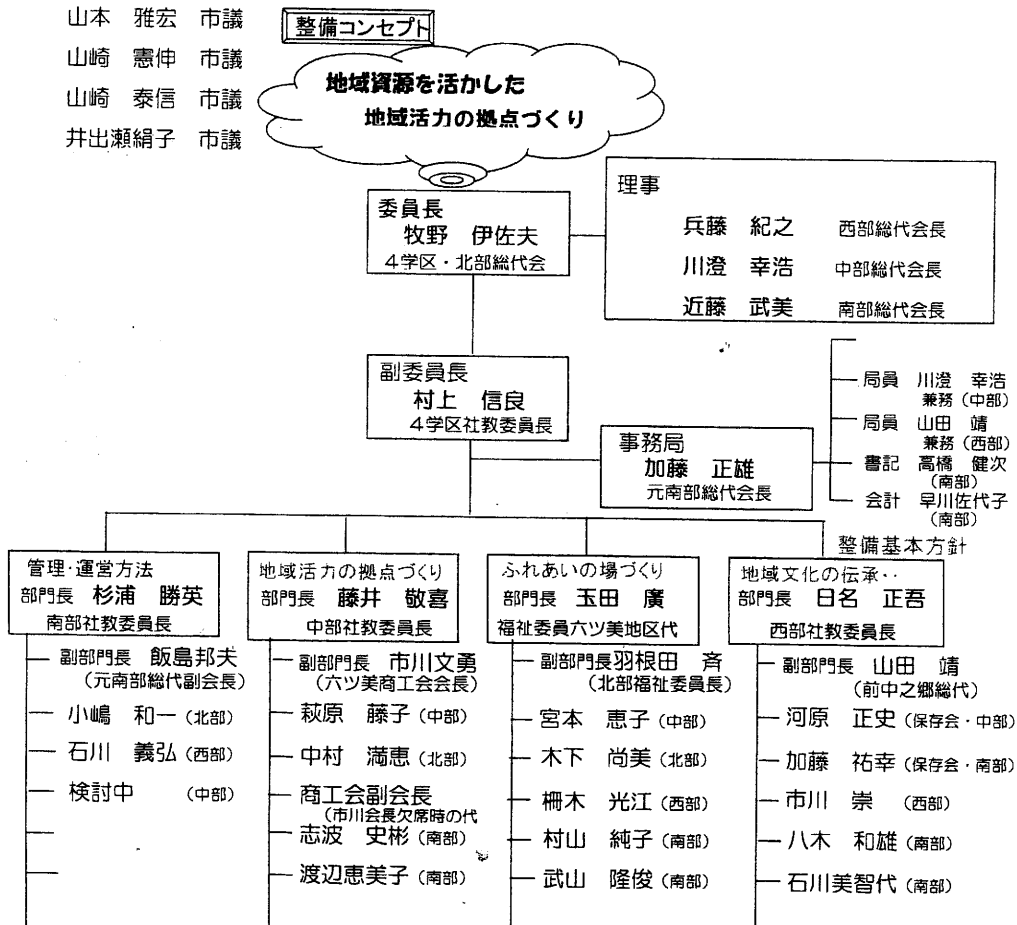
歴史上や地域・行政区画上の問題もあったが、ここで斎田が六ッ美全体のものとして拡がり新しい組織と体制が確立した。 (平成22年9月17日)

悠紀の里 整備事業推進委員会 組織図

2010-9-17 ; 加藤

顧問

柵木 誠 市議
山本 雅宏 市議
山崎 憲伸 市議
山崎 泰信 市議
井出瀬絹子 市議



その後数次にわたり協議がすすめられるが、その概要をみてみよう。

回	月 日	議 事
1	H22・ 8 ・27	悠紀の里基本構想について 悠紀の里整備推進委員会 (仮称) 設立について 今後の進め方
2	9・17	各部門・組織の人選 各部門・事務局員選出について (学区内の調整・連絡) 各部門による質疑応答・意見交換

3	11・19	各委員の役割分担 ワークショップを経て-----意見交換 今後の進め方、その他
4	23・3・29	悠紀の里整備事業の進捗状況 役員留任の件 見学会参加（田原市＝民俗資料館、華山博物館、祭り会館） 意見交換、その他
5	5・28	組織の改訂と新任役員の紹介 悠紀の里整備事業の進捗状況 分科会の開催並びに決め事の報告
6	10・4	悠紀の里整備事業の進捗状況・造成計画・道路工事等 最終基本計画案の説明
7	12・2	悠紀の里整備事業の進捗状況・造成計画・道路事業等 最終基本設計の提示・ワークショップの意見反映等 資料会館についての想い、意見交換その他
8	24・2・24	悠紀の里整備事業の進捗状況・造成計画・道路工事等 第5回ワークショップの意見反映等 資料館の管理運営について また訪れたくなる企画展は
9	5・23	悠紀の里整備事業の進捗状況——24年度の予算内容 アンケート結果と新組織の担当区分（素案） 資料館オープンまでの活動計画——工程表

市民検討会議（ワークショップ）

ここで使われる市民検討会議とはいかなるものであろうか。

市民検討会議とは馴染まない用語であるが、もともとは「作業場」を意味する。

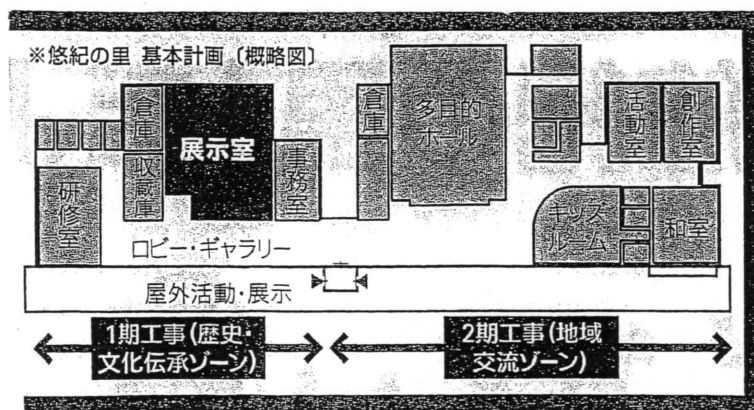
市民・行政・専門家が一堂に会し、市民参加のまちづくりのために、自由に意見を出し合うことを指している。要するにまちづくりをめざし、三者が一体となって共通のテーブルにつくということである。

22年10月24日、市教育委員会社会教育課主宰、NPO法人岡崎まち育成センターのもとで開催され以後数次にわたるグループ討議を重ねた。

第1回	平成22・10・24	施設ビジョンの方向づけと悠紀の里の仲間づくり
第2回	22・12・4	悠紀の里にもとめられる機能
第3回	23・7・24	基本設計と修正案
第4回	23・10・10	基本設計図と最終案まとめ
第5回	23・12・14	展示室のレイアウト案確認

ワークショップの活動を伝えるのに市教育委員会の「悠紀の里」だよりがあるが、2012年1月刊「その5」によってその概要をみてみよう。

紹介される工事は第1期「歴史文化ゾーン」と第2期工事「地域交流ゾーン」からなる。第1期工事「歴史文化伝承ゾーン」の主要施設概要は次のようになる。



悠紀齋田100周年記念を控えて

記念事業実行委員会

勅定による大嘗祭悠紀齋お田植まつりから時を大正・昭和・平成と数えて、27年に100周年記念を迎えようとしていた。

それを記念すべく、「悠紀齋田100周年記念事業」実行委員会の設立総会が、平成24年4月26日JAあいち三河本店で開催された。

総会は委員会設立の趣旨説明の後、規約説明をしている。

悠紀齋田100周年記念事業実行委員会規約（抜粋）

（目的）

第2条 大正4年の大嘗祭から数えて100周年（平成27年）を迎えるに当たり、「歴史と稲作文化の伝承」「地域交流・地域の活性化」を図る為、悠紀齋田100周年記念事業「お田植祭り」として特別記念事業を実施することを目的とする。

（事業）

第3条 本会は、第2条の目的を達成する為次の事業を行う。

100周年記念事業の企画から実施までの全てを行う。

- (1) 100周年記念事業として、式典、記念誌発行、記念植樹、宣伝活動等
- (2) 関連施設の修繕として大正宮の神殿と石垣、齋田施設の整備等

設立総会



「悠紀齋田100周年記念事業」実行委員会設立総会。参加者は、悠紀齋田100周年記念事業の推進を期す。



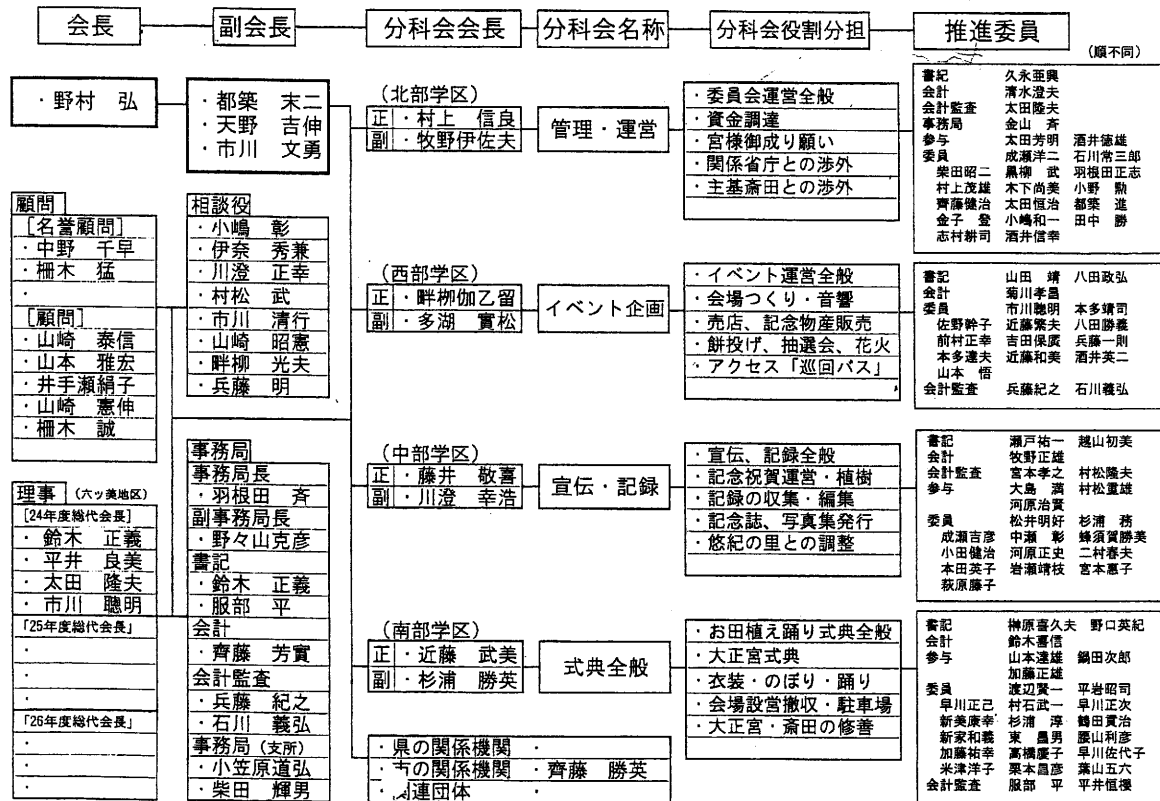
「悠紀齋田100周年記念事業」実行委員会設立総会。参加者は、悠紀齋田100周年記念事業の推進を期す。

日時 平成24年4月26日（木）午後7時
場所 JAあいち三河 本店 3階ホール

実行委員会の組織（案）を審議されるが、これを見ると判るが、100周年の事業を六ッ美4学区が分担し、それぞれに役割を果そうとしていることである。

第1号議案 悠紀斎田100周年記念事業実行委員会組織（案）

平成24年4月26日



規約による役員の任期は平成27年の100周年記念事業終了までであり、平成24年から発効するようになっている。

悠紀斎田お田植まつりの開催案内は、5月10日保存会長名をもって関係筋へ配布されている。同時に建設がすすめられていた「岡崎市地域交流センター六ッ美分館」の第1期工事も完了し開館が報告されている。

第98回 平成25年度 悠紀斎田のお田植まつり

恒例のお田植まつりは6月9日（日）、悠紀斎田の現地で行われた。内田岡崎市長、大村愛知県知事、青山衆議院議員、青山（秋）愛知県議員、香川県綾川町長及び悠紀・主基斎田保存会の関係者も出席して盛大であった。

それに先立ち、100周年記念事業実行委員会会長野村弘氏は「ごあいさつ」を各位のご支援ご協力を要請している。

ごあいさつ

悠紀斎田100周年記念事業実行委員会
会長 野村 弘

暦の上では春となりましたが、寒さがことのほか厳しく感じられます。皆様におかれましてはますますご健勝のことと思います。

さて、六ッ美地域内にて大正4年に大正天皇ご即位に際し、皇室行事として京都仙洞御所に於いて大嘗祭が執り行われました。その大祭に献上されるお米を作る場所として六ッ美村大字下中島の地が選ばれました。

このことは地元として大変名誉なことであり、県下挙げての喜びも図り知れないものがであったと当時の記録に記されています。以来その地に於いて「悠紀斎田お田植えまつり」として、97年間にわたり保存会の皆様を初め、多くの方々に支えられ営々と継承されて参りました。

きたる、平成27年6月7日(日)には100周年を迎えることとなります。この節目となるこの期に併せて行政からも力強いご支援をいただき「悠紀の里整備基本構想」を作成し、現在歴史と文化の継承ゾーンの建設していただいているところです。

私共といたしましても思いを新たにして、郷土の伝統と文化を守り末代までも引き継がれることを念じ、100周年記念事業として盛大な祭りを挙行したいと考え、六ッ美地区の代表者による悠紀斎田100周年事業実行委員会を組織し、積極的な活動を始めました。

各分科会を立ち上げ、種々のイベントについて詰めの作業に取り組んでいる所ではありますが、何はともあれ、すべてのイベントの実施には、地域の皆様方の格段のご理解とご協力なくして成功は望めません。

どうか各位におかれましても、絶大なるご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

式次第

- 1 開式のことば
- 2 神 事
修 祓 の 儀
降 神 の 儀
献 饌
祝 詞 奏 上
田 の 清 祓 い
玉 串 奉 奠
撤 饌
昇 神 の 儀
- 3 主催者挨拶
- 4 来賓祝辞
- 5 祝電披露
- 6 閉式のことば
- 7 お田植えおどり
- 8 お田植え
- 9 直 会

当日の進行表

- 13:30～
六ッ美北中学校吹奏楽部演奏
- 14:00～
1. お田植えまつり式
 2. おねり
 3. 田廻りの踊り
 4. お田植え
- (主催・出演)
- ・六ッ美悠紀斎田保存会
 - ・六ッ美地区総代会
 - ・六ッ美4学区女性部
 - ・六ッ美商工会女性部
 - ・六ッ美南部小学校6年生



田起こし



粃まき



苗取り



代掻き



リハーサル



前日準備



六南小 斎田ポスター



当日準備



式典



市長挨拶



太鼓・歌



田植え踊り



田植え



田植え

六ツ美悠紀保存会の皆様がお田植えまでの準備に引き続き斎田の管理、収穫等の作業を担っています。

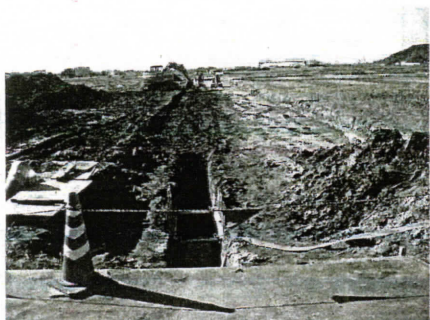
10月には稲刈り・はざ掛けをして、足踏みの脱穀機で粃を収穫します。

地域交流センター「悠紀の里」の開館

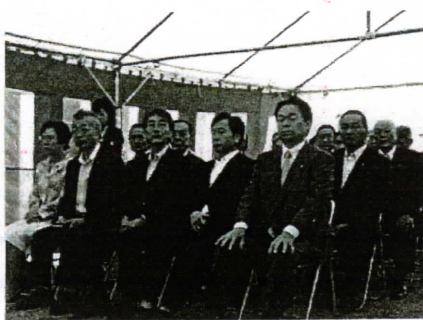
岡崎市総合計画第4期の実施計画に基づき、各地域の「まちづくり」がすすめられた。悠紀の里整備事業が始まったのは2012（平成24）年である。歴史文化の伝承ゾーンと地域交流ゾーンの建設実施計画に2分された第1期工事の安全祈願祭が執り行われた後、その開館が期待されたが、建設は着実に進められた。

「岡崎市地域交流センター六ツ美分館」建設進む

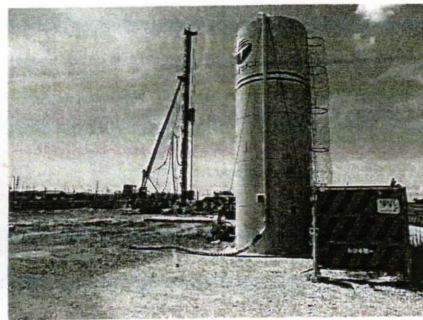
悠紀斎田広場の北側に隣接



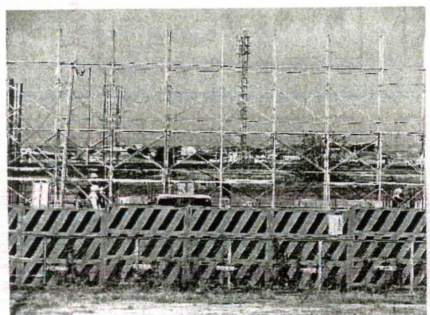
H23-12-04 建設取付け道路造成



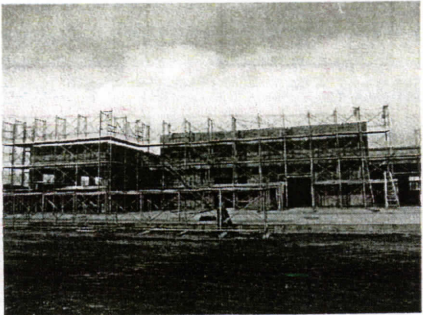
H24-06-28 祈願祭



H24-08-27 「悠紀の里」基礎工事



H24-11-07 「悠紀の里」建設工事



H25-01-15 「悠紀の里」建設工事



H25-01-15 新県道より悠紀斎田



内田岡崎市長挨拶

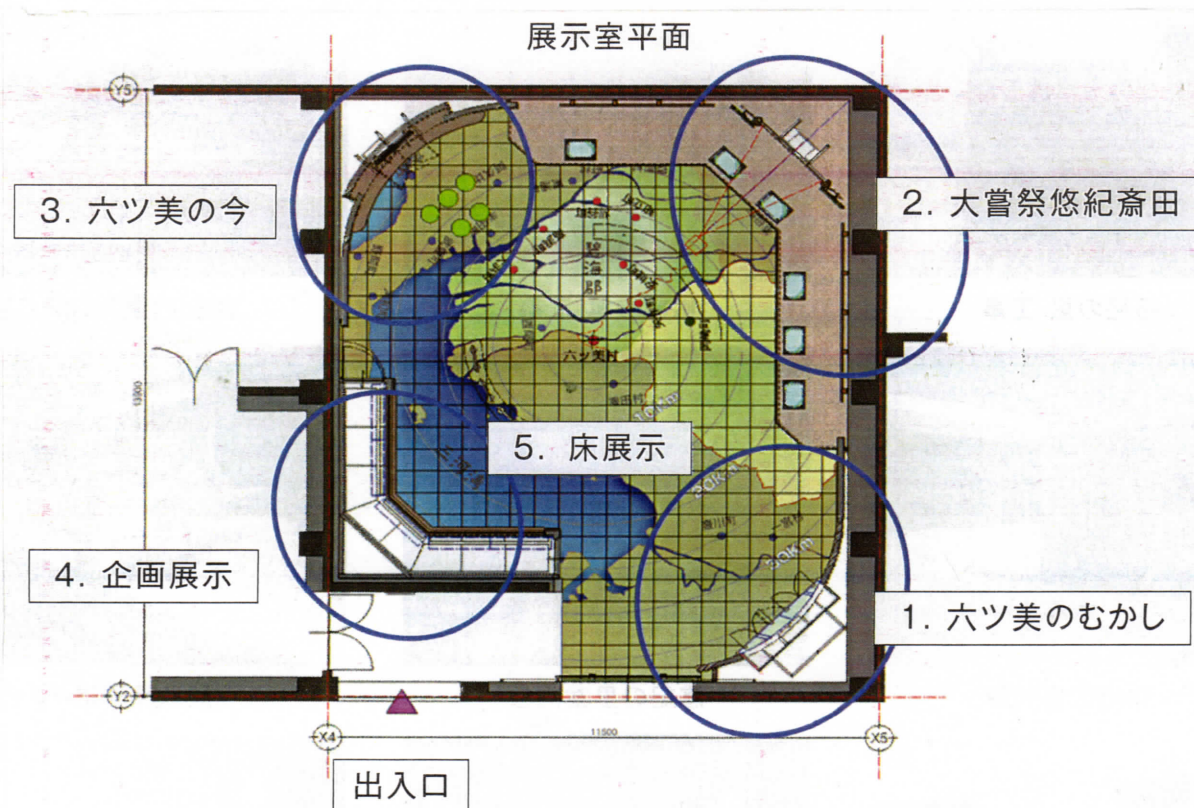


代表者によるテープカット

施設の概要は次のようである。

- 名 称 岡崎市地域交流センター六ツ美分館
- 位 置 岡崎市中島町字上丸ノ内7番地4
- 敷地面積 約11,000 m² (斎田広場を含む)
- 建築面積 第1期整備：歴史・文化伝承ゾーン 約513 m²
六ツ美歴史民俗資料室、研修室、事務室など
第2期整備：地域交流ゾーン 約765 m²
ホール、活動室、プレイルームなど
合計約1,278 m²
- 第1期完成 平成25年3月
- 第1期開館 平成25年6月9日 日曜日 (お田植えまつりと同日)
- 開館時間 第1期開館時及び六ツ美歴史民俗資料室は9時～17時、第2期開館時は9時～21時
- 施設の利用 六ツ美歴史民俗資料室：入室無料
研修室：添付資料を参照ください。

このうち、第1期に完成をみた展示室の平面図と第2期の整備計画は次のようになる。



おわりに

「十年一昔」という言葉がある。世紀という語句を使わないとしたら、100年をどのように言い回したらよいだろうか。

大正天皇の即位に係わり悠紀斎田が誕生してから100年を経過しようとしている。いわば大河の流れにも似る奔流にも「瀬」や「淀み」がある。明治・大正・昭和・平成と時世を数える中で、日本にもわが郷土にも実に多くを経験した。

悠紀斎田に限っても

- 大嘗祭と天皇の即位
- 勅定と斎田の点定
- 斎田地の造成と準備
- お田植まつりと奉仕
- 悠紀斎田80周年と主基斎田との提携
- その他のお田植式と周囲の変貌

「去る者は日々に疎し」とかいう。ともすれば風化し忘れ去られようとする悠紀斎田の歴史と皇室の伝統と文化を消してはならないという意図からこの小誌を認めた。

しかし筆力の不足や描写の稚拙さもあって、時々的情景を十分に描き出せなかったことを遺憾に思う。それにもかかわらず監修と情報・記録の提供に最大の努力を惜しまれなかった先輩の厚意を感謝して筆を措きたい。

平成25年3月10日

監修 柵木 猛
野々山克彦
加藤 正男
杉浦 勝英

文責 谷川 巖

参考文献

- | | |
|-------------------|-------------------|
| ○ 旧岡崎市史 | ○ 六ッ美南部の歴史・文化を紐解く |
| ○ 岡崎市史 | ○ 岡崎の歴史 |
| ○ 六ッ美村史 | ○ 岡崎の人物史 |
| ○ 岡崎市制70周年記念事業記録誌 | ○ 悠紀の里 |
| ○ 岡崎・額田の100年 | ○ 日本史図録 |
| ○ 岡崎いまむかし | ○ 最新歴史資料 |